



平成 20 年 1 月 18 日

各 位

会社名 アストマックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 牛嶋 英揚
(コード番号：8734)
問合せ先 専務取締役管理部門長 小島 健太郎
(電話 03-5447-8400)

平成 20 年 3 月期 12 月度の月末運用資産残高及び運用収益率のお知らせ

今期（平成 20 年 3 月期）12 月度のプログラム別月末運用資産残高及び運用収益率につきまして、添付のとおりお知らせいたします。

12 月は、ドル安傾向がさらに強まるなか、株式市場の低迷などを受けて商品市場への投資資金の流入が加速し、月初から月末にかけて商品先物市場はきわめて堅調に推移しました。原油価格が 100 ドルの大台目前にまで上昇するなど、商品市場への関心がさらに高まったことも価格上昇を後押しする要因となりました。

当社が公表しておりますアストマックス商品指数（AMCI）は、11 月末の 327.329 に対し、12 月末は 354.359 となり約 8.3%の上昇となりました。

エネルギー市場では、海外原油価格が地政学的リスクの高まりや世界的な在庫逼迫懸念などに注目が集まり、NY 原油先物価格は月初からほぼ一貫して上昇しました。月初には 90 ドルの大台を割り込む場面もありましたが、月末には 100 ドル近辺にまで上昇したことで、再び高値を目指す展開にあります。東京エネルギー市場では海外原油高の動きに加え、円安基調が続いたことで高値を更新する動きとなりました。

貴金属市場では、米ドルの軟調さと原油高が注目材料となり、月末に掛けて上昇基調を強める形となりました。東京市場でも円安基調を背景に年初来高値近辺での推移となりました。

非鉄金属市場では、アルミが米国景気の不透明感などを背景に 11 月以降の下落基調が続き、年初来安値近辺での推移となりました。大豆は中国の旺盛な需要や南米での天候不順などを背景に 34 年ぶりの高値を更新し、とうもろこしもエタノール価格上昇による需要増加見通しから年初来高値を更新しました。

本邦株式市場は、月初には為替が円安方向に反転し輸出企業の業績を下支えとの期待から堅調に推移してまいりました。しかしながら中旬以降に米銀のサブプライムローン関連での追加損失の発生と日銀短観の業況判断が予想を下回る結果であった事が発表されると下げ基調を強め、TOPIX は 11 月末の 1531.88 から、12 月末 1475.68 へと続落して終了しました。

こうした市場環境の中、当社が運用する資産残高は前月比 3,155 百万円増（13.5%増、11 月末資産は、速報値からの修正あり）の 26,390 百万円となりました（一部資産の数字は、速報値を含む）。12 月の資産残高の増加は、裁定取引型の運用プログラム Astgenesis に基づく運用資産の追加、商品指数

の上昇に伴う商品指数連動型の資産増加、及びこれらに付随する債券運用戦略の資産増加によるものでした。

尚、個別の運用資産残高、月次収益率は以下のとおりとなっております。

1. 運用資産残高

(単位：百万円)

プログラム名		平成19年 4月	平成19年 5月	平成19年 6月	平成19年 7月	平成19年 8月	平成19年 9月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	1,042	1,034	1,041	1,541	1,592	1,719
	アストプレリユード	281	270	255	230	0	—
	アストオプション	181	187	178	189	195	184
	AMCI	7,624	8,119	11,899	11,909	11,177	12,160
証券投資 顧問事業	アストオプション	20	19	19	19	19	0
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	315	—	—	—	—	—
	アストジェルズ	196	199	205	204	184	176
	債券運用戦略	7,915	9,618	16,932	17,199	16,188	17,674
	その他	3,047	3,067	3,098	3,201	3,065	2,981
合計		20,624	22,517	33,630	34,495	32,423	34,898

プログラム名		平成19年 10月	平成19年 11月	平成19年 12月	平成20年 1月	平成20年 2月	平成20年 3月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	1,704	1,720	2,726			
	アストプレリユード	—	—	—			
	アストオプション	173	178	400			
	AMCI	12,820	8,250	8,715			
証券投資 顧問事業	アストオプション	—	—	—			
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	—	—	—			
	アストジェルズ	163	158	156			
	債券運用戦略	18,713	9,940	11,460			
	その他	3,002	2,987	2,931			
合計		36,578	23,235	26,390			

2. 運用収益率

プログラム名		平成 19 年 4 月	平成 19 年 5 月	平成 19 年 6 月	平成 19 年 7 月	平成 19 年 8 月	平成 19 年 9 月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	-0.19%	-0.55%	0.58%	0.13%	0.65%	0.34%
	アストプレリユード	-1.58%	-2.85%	-3.07%	-5.66%	-4.03%	—
	アストオプション	1.00%	3.03%	-4.74%	6.00%	3.08%	-15.50%
証券投資 顧問事業	アストオプション	0.06%	0.00%	-0.31%	-1.24%	0.80%	0.71%
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	0.06%	—	—	—	—	—
	アストジュエルズ	-1.20%	2.44%	3.33%	0.46%	-8.98%	-3.22%

プログラム名		平成 19 年 10 月	平成 19 年 11 月	平成 19 年 12 月	平成 20 年 1 月	平成 20 年 2 月	平成 20 年 3 月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	-0.88%	-0.61%	0.83%			
	アストプレリユード	—	—	—			
	アストオプション	-6.03%	2.88%	0.59%			
証券投資 顧問事業	アストオプション	—	—	—			
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	—	—	—			
	アストジュエルズ	-6.58%	-2.27%	-0.37%			

- (注) 1. 上記の数値は原則、毎月月初より 10 営業日までに開示いたします。
2. 運用資産残高は時価純資産額、または時価純資産額にノーショナル・エクイティ(想定運用資産)を加えたもので、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- * 先物市場を使った運用の場合、実際に証拠金として必要な資金が少額であることから、顧客によっては実際に預託する資金に想定運用資産を加えた資産額で運用する様に契約上取り決めることが多く、通常、この契約運用資産額が管理報酬の計算上のベースとなっています。この様に顧客との契約運用資産額のうち実際に資金が預託されていない金額をノーショナル・エクイティ(想定運用資産)と言います。
3. 複数の契約が存在する運用プログラムについては当該プログラムのコンポジットを作成し運用資産残高、運用収益率を算出しております。また、運用収益率は、成功報酬を伴う運用プログラムについてのみ掲載しております。
4. 「アストオプション」に関しては商品投資顧問事業と証券投資顧問事業の二つの事業部門にありますが、両運用プログラムのうち、証券先物等で運用するものを証券投資顧問事業に、商品及び金融先物やその他の運用のものを商品投資顧問事業に分類しております。
5. 総運用資産残高につきましては 1%以上の修正が生じた場合はその内容を開示いたします。

以上